

*庭師？世界を歩く＜ギリシャ編＞

2018年4月18日～4月30日、今回はギリシャの国内を、アテネを皮切りに中部のカランバカ、北部のテッサロニキ、南部エーゲ海のクレタ島、サントリーニ島そしてアテネ。メテオラの文化遺産を始め、考古学を学ぶ？旅です。期間中、好天？に恵まれ、日中は、20℃を越え、時には30℃に迫る気温。夜間は15℃前後で、薄手の羽織るもの一枚が必要なくらい、寒暖の差が大きい中での旅でした。紫外線も強く、今回は、紫外線カットのみの透明レンズの眼鏡を持参。助かりました。例年は、折角の風景を原色のままで観賞したいとの思いから、サングラスは使用しないのですが・・・最近では、偏光レンズ等との複合レンズなどもあり、外観ほど着色の影響の少ないサングラスも販売されているようです。一時は、経済破綻も囁かれたギリシャですが・・・商店街では、シャッター通りも・・・とはいうものの、特別、不安な様子は感じられませんでした。

* 第1～2日目（4月18日・19日）

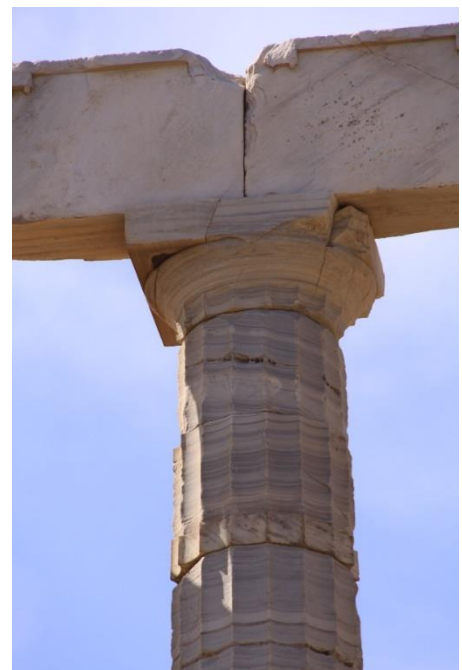
4月18日(木)、伊丹16:00発の全日空NH032便で、羽田経由成田へ。出国手続きを終え、成田21:25発のトルコ航空TK53便でトルコのイスタンブール乗継ぎ、アテネ(エレフテリオス・ヴェニゼロス国際空港)着 翌日8:40(現地時間/時差-6時間)着。着後、そのままバスでスニオン岬へ。スニオン岬は、アテネのあるアッティカ半島の南端の地。その岬にある神殿遺跡がポセイドンの神殿。昔、アテナとの争いの結果、アテナはアテネを、そしてポセイドンは海を納めるこ



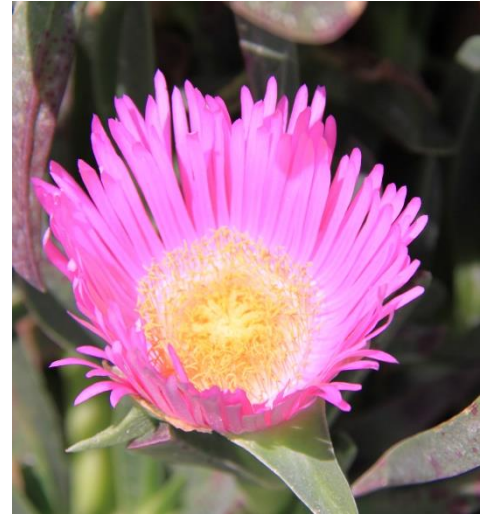
写真上：ポセイドン神殿

写真右：ポセイドン神殿の石柱

写真下：スニオン岬からエーゲ海



とになったとか・・・。ポセイドン神殿は、エーゲ海を見下ろす丘の上。到着した時は、かなりの強風で、カメラを構えても、風に押し流されかかる状態。入り口近くにバクヤギク〜カルポプロッス・キシレンシス(ハマミズナ科カルポプロッス属)が、この強風にも耐えて咲いていました。ポセイドン神殿は、ドーリア式建造物で、均整のとれた 16 本の白い大理石の柱は見事。大理石の石柱は、以前、アテネの西側にあるペロポネソス半島のオリンピア遺跡を訪れた際、見かけた事がありますが・・・。岬からのエーゲ海。青い色が印象的でした。



写真上左：プロポネソス半島に沈む夕陽/写真上右：バクヤギク(ハマミズナ科カルポプロッス属)

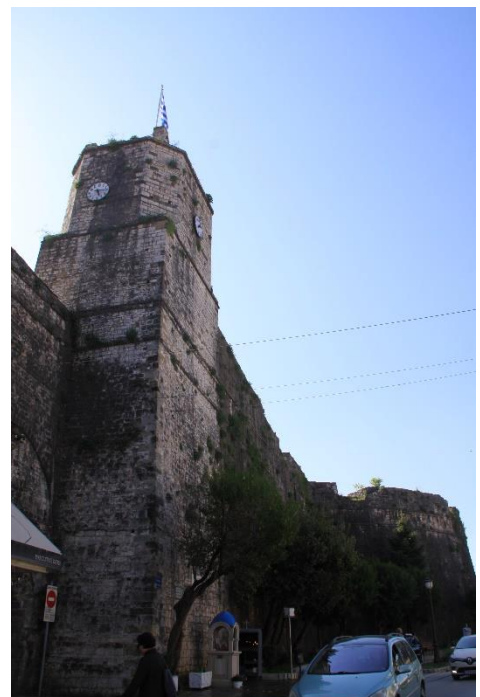
神殿の周囲を散策後、今夜宿泊する宿(テヴァニ・アポロン・パレス&タラソ)へ。少し遅めの昼食をホテルでいただき、そのまま夕刻まで、部屋で一休憩。奈良を出て 32 時間後です。疲れもあって、2 時間ほど昼寝。夕食のため、ホテル内のレストランへ。丁度、日没前(19:50 頃撮影)でした。早速、テラスからペロポネソス半島に沈む夕陽をしばし堪能。今日は、アッティカ半島を東側から西側へ、ほぼ半周の移動でした。

* 第3日目 (4月20日)

AM6:00 起床。今日は、アテネから空路、中部のイオアニナへ、そしてメテオラのあるカランバカへ。



写真上：イオアニナ湖/写真右：イオアニナ要塞の城壁



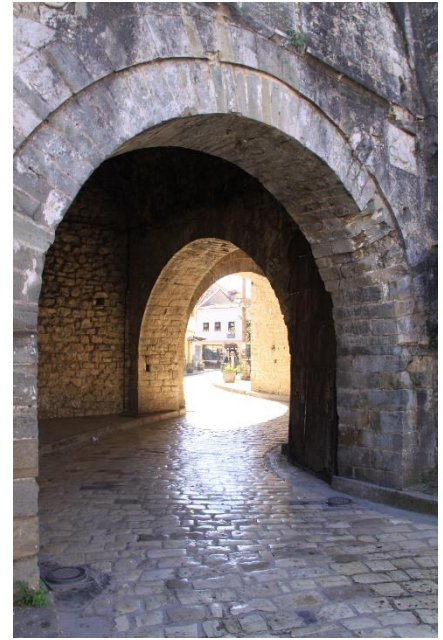
イオアニアは、アドリア海の南、イタリアとアテネとの間に位置するイオニア海から少し内陸に入った所にある街。イオアニアは、この地方で最大の都市だそうですが、街の名前が文書に登場するのは、1020 年になってからだそうです。オスマン帝国時代、この地を支配したアリ・パジャが発展させた街だそうです。1822 年にイオアニア湖(旧パンボデイス湖)に浮かぶ小島で、オスマントルコによって暗殺されたとか・・・。

イオアニア湖に突き出たように、堅固なイオアニアの要塞があり、アリ・パジャの墓やアスラン・パジャ(アリ・パジャ)のモスク(現在は市歴史博物館)も残っています。要塞の内側にも民家が・・・。

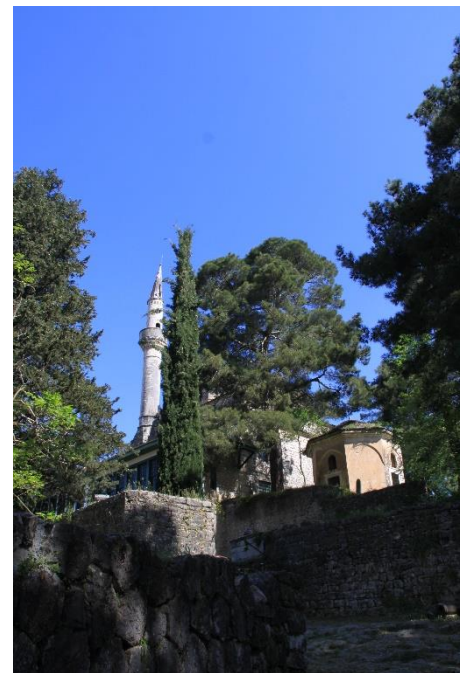
イオアニアからバスで 30 分ほどの所に、ドドニ遺跡があるそうです。

ドドニ遺跡は、紀元前 8 世紀にはすでに存在していたそうで、ギリシャで最古のゼウスの神託所があった処らしい。現在は、紀元前 3 世紀に建造された神殿や野外劇場の遺跡があるそうです。

要塞内散策中、日本でもよく見かける花が・・・。どうやらハナズオウのようですが・・・。念のため、ガイド嬢に質問。返事は「ユダの樹」。初耳でした。が、どう見てもハナズオウ。調べてみると、セイヨウハナズオウ(マメ科ハナズオウ属)でした。丁度、満開の時期のようで、市内街路樹として多く植栽されていました。濃いピンク色の桜並木のようで、非常に綺麗。カメラに納めたかったのですが、今夜の宿泊地、カランバカへのバスでの移動中だったもので・・・。残念。



写真上左：要塞の内側/写真上右：イオアニア要塞の入り口



写真左：セイヨウハナズオウ(マメ科ハナズオウ属)

写真上左：セイヨウハナズオウの葉

写真上右：アスラン・パジャ(アリ・パジャ)のモスク

他にも要塞内は花盛りでした。ハリエンジュ～ニセアカシア(マメ科ハリエンジュ属)、ゲッケイジュ(クスノキ科ゲッケイジュ属)、セイヨウバクチノキ(バラ科サクラ属)など・・・。ハリエンジュは、街路樹としても多く見かけました。

イオアニナ観光後は、世界遺産メテオラのあるカランバカへ移動です。途中は、山間部を走る道路。峠越えもあり、峠からみる谷間の新緑の美しさに見とれているうち、うとうと・・・。



ところで、ハナズオウとセイヨウハナズオウの違いですが・・・。

写真上左：ハリエンジュ～ニセアカシア(マメ科ハリエンジュ属)

写真上中：ゲッケイジュ(クスノキ科ゲッケイジュ属)

写真上右：セイヨウバクチノキ(バラ科サクラ属)

・ハナズオウ：高さは

2～3m になり、葉はハート形で艶があり、葉柄の両端は少し膨らみます。早春に枝に花芽を多数つけ、3～4月頃葉に先立って開花し、花には花柄がなく、枝から直接に花が着きます。花は紅色から赤紫(白花品種もあります)で長さ1cmほどの蝶形花です。

・セイヨウハナズオウ：高さ12メートル、幅10メートルまでにも生長します。1年ごとに深い桃色の花をつけ、春遅くに幹でも咲き、幹生花(植物の幹に直接開花及び結実する形態のこと)の状態になります。春先に花が咲いてから葉が出、葉はハート型ですが、角は鋭くなく、時々先端に浅い切れ込みが入ります。

* 第4日目 (4月21日)

今日は、世界遺産メテオラの修道院群の観光です。メテオラの特徴は、なんとと言っても巨岩の上に建てられた建築物群。現在は、6つの修道院がありますが、勿論、いずれも巨岩の上。最初は、岩の窪みで修行を始めたのが始まりとか・・・。その後、岩山の上に・・・。最初の登頂は、ロッククライミング? 資材はロープで吊り上げ。今では、まずは階段造りからだと思いますが、現在ある階段は、どうやら修道院ができた後に造られたようです。いまでも、滑車を使った吊り上げ施設が保存されてました。下界との縁を絶っての修行。自給自足。現在は、多くの観光客が訪れ、賑わっているようです。

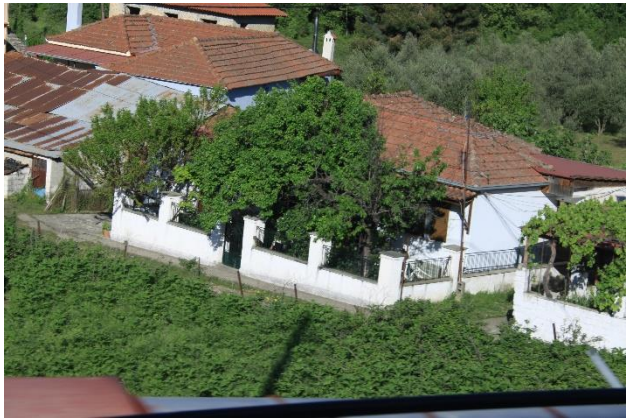


写真上：メテオラの巨岩群(グランド・メテオラにて)

そもそも、このような地形がどうして・・・? 当初、固い岩、例えばマグマが冷えてできた花崗岩? と思っ

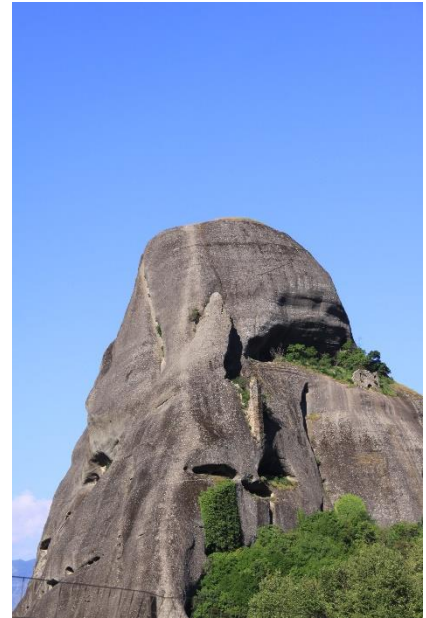
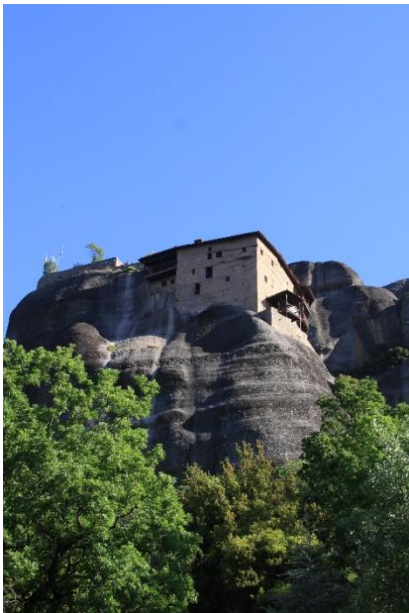
ていました。が、主成分は、砂岩だそうです。もともと、この地は湖だったそうで、長い年月の間に堆積した地層が、隆起。その後、雨や川の流れて浸食されて現在の地形になったのだそうです。このような岩山がある地域は、狭い範囲で限定的のようです。かつて、湖だったといわれて、「なるほど」と、納得？あくまでも仮説で、真相は不明だそうです。

メテオラの修道院群を訪ねるには西側と東側からのルートがあります。特に、西側からのルートは、巨岩に挟まれた峡谷沿いに登ります。ホテルからは、カランバカの西に位置するカストラキと呼ばれる集落を通ります。この集落は、比較的戸建て住居が多く見られました。そして、多くの庭には、フェンスに誘引されたブドウも見られました。車窓からの撮影には失敗しましたが・・・。



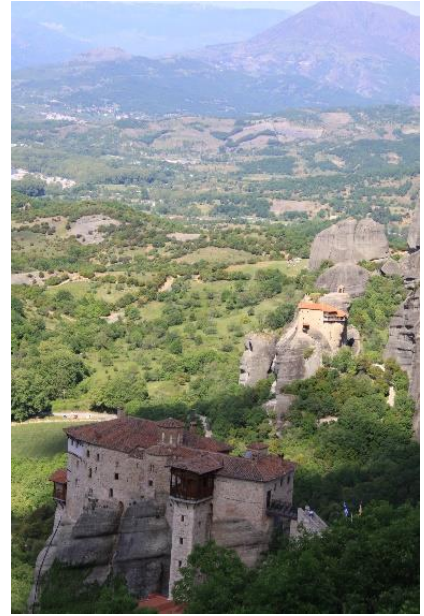
写真上：カストラキにて

巨岩に挟まれた峡谷に入ると、巨岩の上の修道院が・・・最初に目にしたのは、アギオス・ニコラオス修道院。すぐ近くにドウピアニ山。かつては、この岩山でも修業が行われたのでしょうか？峡谷沿いに高度が高くなるにつれ、次々に他の修道院の姿も・・・。



写真上左：アギオス・ニコラオス修道院/写真上中：ルサヌ修道院/写真上右：ドウピアニ山

メテオラは花盛り。シロバナライラック(モクセイ科ハシドイ属)～ライラックの白花種。シロバナハナズオウ(マメ科ハナズオウ属)～ハナズオウの白花種。二種ともアギオス・ステファノス修道院中庭で・・・。ツリージャーマンダー(シソ科ニガクサ属)はメガロ・メテオロン修道院中庭に咲いていました。エニシダ(マメ科エニシダ属)の赤花種は、ホテルの中庭で・・・。



写真上左：ヴァルラアム修道院/写真上中：アギア・トリアダ修道院
写真上右：ルサヌ修道院(手前)とアギオス・ニコラオス修道院(奥)



写真左：メガロ・メテオロン修道院
写真上：同・中庭



写真左：アギオス・ステファノス修道院
写真上：同・回廊



写真上/写真下：メテオラにて



写真上：アギオス・ステファノス修道院中庭



写真上：カランバカの街並み
～アギオス・ステファノス修道院にて
写真下：メテオラの巨岩
～カランバカの市街にて





写真上左：シロバナライラック (モクセイ科ハシドイ属)

写真上中：シロバナハナズオウ (マメ科ハナズオウ属)

写真上右：エニシダ～赤花種 (マメ科エニシダ属)

写真左：ツリージャーマンダー (シソ科ニガクサ属)

* 第5日目 (4月22日)

今日は、カランバカからギリシャ北部の街、テッサロニキへバスで、そして空路、ギリシャ南部、エーゲ海最南のクレタ島へ・・・。テッサロニキへの途中でも、ハリエンジュの街路樹が見事でした。残雪を頂いた、オリンポス山国立公園の山並みも綺麗。道路脇にはエニシダ(マメ科エニシダ属)の群落も・・・

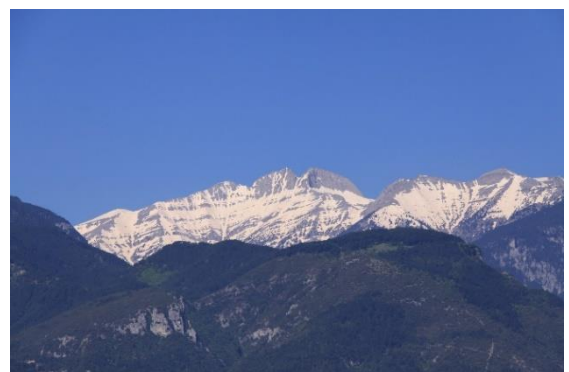
ギリシャ神話で欠かせない山、オリンポス山。かつて、ゼウスを最高神とする「オリンポス12神」と呼ばれる神々が、この山の頂に住み、時々、下界を見下ろしては他の神々や人間の行いを見守っていたとか・・・。今でも？途中、休憩で立寄ったサービスエリアからの遠望も(右中央のピークがオリンポス山 2917m)・・・

駐車場の一角に、アーモンド(バラ科サクラ属)の花も咲い



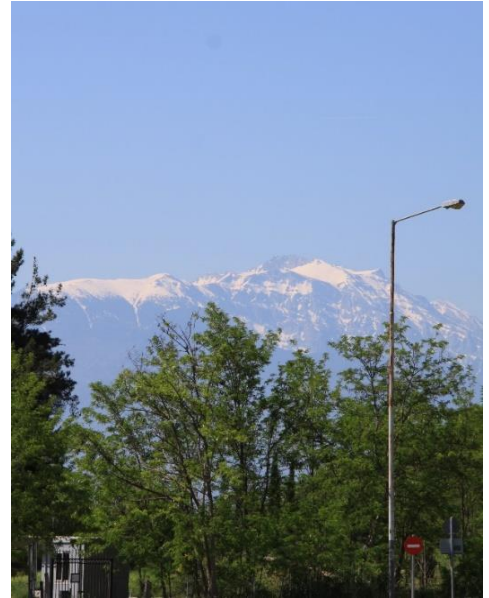
写真上：オリンポス山国立公園～E92 ラリッサ北部郊外にて

写真下：オリンポス山 2917m～リトホロ付近にて



ていました。すでに、終りを迎えていましたが、白い綺麗な花でした。

テッサロニキは、ギリシャ第二の都市だそうです。まずは、アギオス・ディミトリオス教会へ。5世紀頃に建てられたたれたギリシャ最大の教会だそうです。丁度、赤ん坊の洗礼が・・・。



写真上左：アーモンド(バラ科サクラ属)

写真上右：オリンポス山 2917m

～いずれもカテリニ郊外のサービスエリアにて

写真左：ホワイト・タワー

写真下：アギオス・ディミトリオス教会

昼食後、ホワイト・タワーや考古学博物館を見学。ホワイト・タワーは街のシンボル。かつては防壁の一部。18～19世紀のトルコ時代には牢獄として・・・。今はビザンティン博物館として利用されています。

オリーブ(モクセイ科オリーブ属)は、アギオス・ディミトリオス教会の前庭で見かけました。



写真上：オリーブの花

(モクセイ科オリーブ属)



考古学博物館には東西マケドニア地方やハルキディキ半島からの出土品が集められているそうです。非常に繊細で緻密な黄金細工が見事でした。

その後、時間があるので、市街が一望できる場所へ・・・。残念ながら、全て車窓から。道幅が狭いので、大型バスが停車すると、たちまち・・・？それでも、堪能はできました。



写真上左：考古学博物館前にて



写真上右：テッサロニキ考古学博物館

写真下左：ビザンティンの城壁/写真下右：ピルゴス・トリゴニウ(見張り台)

街の北部にあるビザンティンの城壁を出ると市街からお別れ。一路、空港へ・・・。その城壁にある門の狭いこと・・・。こんなところ、このバス、通れるの？とヒヤヒヤ。何度か切り返して、やっと通過。さすが、プロ。



夕刻、テッサロニキから空路、クレタ島へ・・・。



宿泊した GDM メガロンホテルの窓からは、イラクリオンの港が一望できました。

写真下：イラクリオン港の夜明け

* 第6日目 (4月23日)

今日は、終日、クレタ島観光・・・。とは言っても、全島ではなく、ごく一部です。クノッソス宮殿跡遺跡と考古学博物館、イラクリオン市内散策です。

クノッソス宮殿は、ミノス王が一度入ったら二度と出てこれない迷路を建て、ミノタウロスという怪物を閉じ



込めたとされるギリシャ神話の舞台。もともとは神話なので、宮殿の存在そのものも・・・。1900年以降の発掘で、宮殿が実在したことが解ったそうです。その宮殿から発掘された出土品をはじめクレタ(ミノア)文明に関する出土品を収蔵しているのが考古学博物館。



写真上左：ヴェネツィア時代の要塞とオールド・ハーバー(ホテルのバルコニーにて)
写真上右：ジャカラダ(ノウゼンカズラ科キリモドキ属)



写真上左/写真上右/写真下左/写真下右：クノッソス宮殿遺跡にて



クノッソス宮殿遺跡の駐車場で珍しい花を見かけました。ジャカラダ(ノウゼンカズラ科キリモドキ属)で

す。小生、今まで写真以外で目にするのは始めて。

南アフリカ連邦共和国では有名な花で、日本からもツアーが組まれているほどです。小生、日本では見られない花だと思っていました。が、「熱海には咲いている」と、同行のご婦人が教えてくれました。また、小生が所属している会の会員からも、「大阪市港区にも咲いているところがある」と・・・奈良市内で、幼木を植えられているご家庭を知っていますが、花が咲く保証はできないと、購入した園芸店で言われたとか・・・。それにしても、ジャカランダは、日本でも見られるのです・・・。調べてみると、熱海市の他、雲仙市、日南市の三カ所が比較的知られているとのこと。他に前記した大阪市港区や大阪市天王寺区の一心寺でも見られるそうです。

クノッソス宮殿遺跡の特徴の一つに、城壁や城門など防御設備が無いことだそうです。貴重な遺跡ですが、世界遺産には登録されていません。遺跡内でのガイド嬢の話では、建築には、石材と木材が使用され、柱や梁は木材、壁は石材。木材の樹種を質問したところ、「イトスギ」と・・・。周囲を見回しても、イトスギ(ヒノキ科イトスギ属)は確かに確認できました。が、少量のようでした。宮殿を建設するには、大量に必要だと思われましたが・・・。昔は、かなり多く育っていたのでしょうか？

復元されている建造物の柱や梁にはコンクリートが使用されています。世界遺産に登録されていないのは、復元材料も影響しているのかも・・・。

さらに、不思議な話・・・。ここでは、日本では古来から木造建築物の柱は、樹木の根元側を下、梢側を上を使用していますが、ここでは逆だそうです。全体の力学的なバランスのためとか・・・。?????

昼食後、考古学博物館見学と市内 1866 通りの散策です。市場(バザール)のように、狭い通りの両側に店が並んでいました。別名、Market 通りとか・・・。

* 第7日目 (4月24日)

早いもので、半分が過ぎました。今日は、クレタ島イラクリオンの港から高速船で2時間ほど。エーゲ海で、最も美しい島と言われているサントリーニ島へ・・・。若い女性には、たいへん人気の島。

以前、東地中海のクルーズに参加した際、ベニスからロドス島、キプロス島への途中、島の沖合を・・・。夜間就寝中で、島影さえも見る事ができなかった記憶が・・・。今回、初上陸です。島に近づくにつれ、上部に雪をまとった島の風景が・・・。雪ではなく断崖の上に建てられた白い住居です。小生が、はるか昔？目にした最初の写真では、こんな感想でした。



写真上：イラクリオンの街/写真下：停泊中のクルーズ船





写真上左：エーゲ海からみたサントリーニ島/写真上右：アティニオス港

サントリーニ島は、元々、一つの島。紀元前の大噴火で島の中央部が陥没。その後、現在のネア・カメニ島が誕生して現在の景観になったとか。それにしても断崖絶壁の上に住居が・・・。今でも、地震で崖に近い処では、地滑りなんぞも・・・。所々に廃墟も散見。

高速船は、サントリーニ・カルデラ内にある、アティニオス港へ・・・。かつては、さらに奥にあるオールド・ポートが利用されていたようですが、今は、遊覧船やクルーズ船からのランチが利用。そして、九十九折りの急な坂道を、徒歩かロボタクシー、もしくは埠頭近くから崖上までのケーブルカーを利用してフィラの街へ・・・。

今回は、アティニオス港の埠頭からバスで・・・。ここも九十九折りですが、車道と言っても、絶壁にへばりついた道路なので、大型車両のすれ違いは・・・。海側に座席が位置すると、眼下は・・・。



写真上：フィラの大聖堂

写真左/写真下：フィラの街



高所恐怖症の小生に取っては、過酷な時間。それでも、遠くは青い海と青い空。その間にサントリーニ・カルデラの島々が見え、特等席に早変わりです…。途中、カーブで大型車両同士が、すれ違うことができず、しばらくは、坂道の途中で眼下の風景を楽しませてくれました。

今日、最初の観光は、サントリーニ島の中心に位置するフィラの街の散策です。土産物店の多い街の中には、車は入れません。最寄りの駐車場から、勿論、徒歩で観光メインストリート？へ…。

フィラの街、散策中に見かけた植物です。センダン(センダン科センダン属)は、駐車場近くに咲いていました。トベラはフィラの街中、崖の上、土産物店が多く連なる通路脇他、アチコチで見かけました。



写真上左/写真上右：フィラの街にて



写真上左：センダン(センダン科センダン属)

写真上右：センダンの実

写真左：トベラ(トベラ科トベラ属)

* 第8日目 (4月25日)

サントリーニ島二日目。今日は、サントリーニ・カルデラ内にあるネア・カメニ島上陸&散策とカルデラ内遊覧。

サントリーニ・カルデラは、紀元前 1600 年頃から噴火を始めた火山活動でできたカルデラ。その中に誕生した島がネア・カメニ島。カルデラ周囲は、サントリーニ島、テイラシア島、パレア・カメニ島、アスプロニシ島で外輪山を構成。ネア・カメニ島を含めて、サントリーニ諸島とも呼ばれています。このうち、人が定住する島は、サントリーニ島とテイラシア島。

ネア・カメニ島は活火山で、今でも水蒸気を噴出しているそうです。最近の噴火は 1956 年。結構、キツイ斜面を散策というよりはトレッキング感覚で・・・最初にできた噴火口と、二番目の噴火口近くまでは辿り着きましたが、最も新しい火口までは、辿り着けても帰路が心配で・・・止めました。活動中の島ですが、アチラコチラに植物も・・・カメラに納めたものの、いまだ、名称不明です。

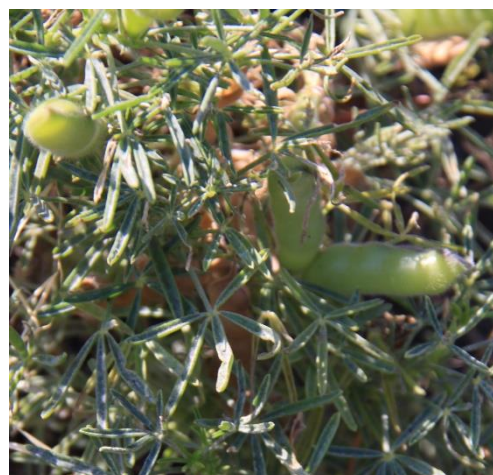


写真上：フィラの夜明け～マジェスティック・ホテルにて

写真左：ネア・カメニ島にて

写真右下：ネア・カメニ島からサントリーニ島

写真下左：ネア・カメニ島にて



上の写真は、ネア・カメニ島で見かけた植物ですが・・・。マメの仲間のようです。「ファバ豆」と紹介されましたが・・・。色々調べて見ましたが、未だに正式な名称は確認できていません。

遊覧船の出港は、アディニオス港からでしたが、ネア・カメニ島の栈橋を出て、ネア・カメニ島周囲を一周し。下船は、オールド・ポート。ここからケーブルカーで、一気に、島の頂上へ・・・。眼下には、九十九折りの坂道で、観光客を待つロバの列が・・・。今日は、あまり、働く機会が無いようでした。



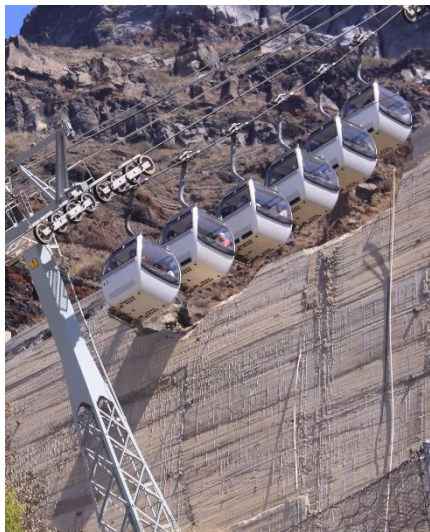
写真上：パレア・カメニ島

オールド・ポートと島の上を結ぶケーブルカー？ロープウェイもしくはゴンドラリフトではないでしょうか？軌道が無く、ゴンドラなので???



写真上左：オールド・ポート(崖下)とフィロステファニ、フィラの街(崖上)

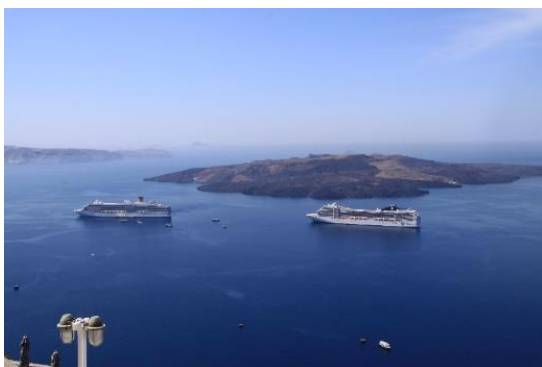
写真上右：オールド・ポート沖に停泊中のクルーズ船



写真上左：ケーブルカー

写真上右/写真下右：オールド・ポート

写真下左：停泊中のクルーズ船



昼食後、再度フィラの街を散策。現在では、壁は白に統一されているようです。景観保全と、漆喰に抗細菌作用がある？などの理由とか・・・。それにしても、青い海に白。その後、ホテルまで散策。途中、スーパーマ



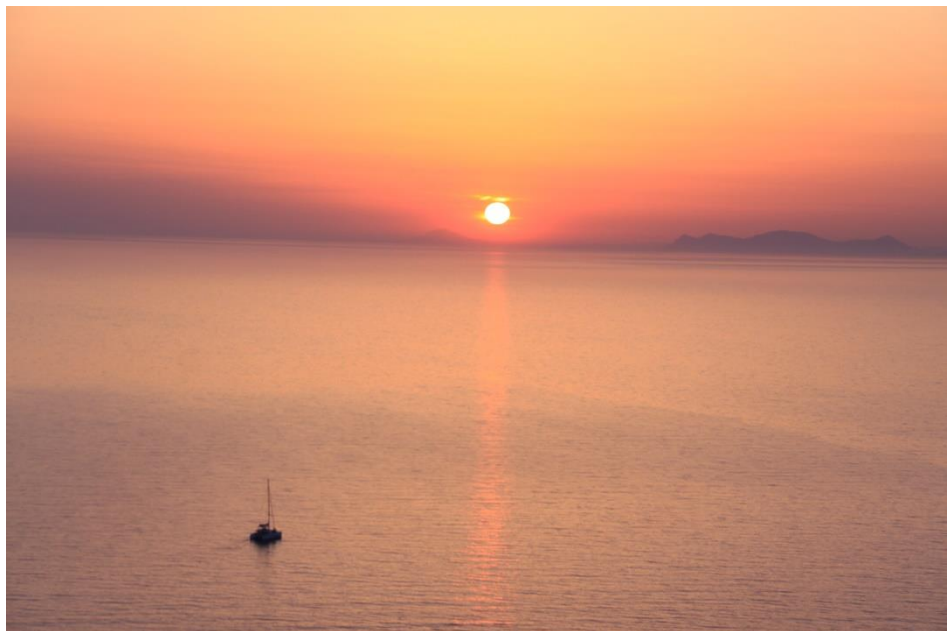
写真上左/写真上右/写真左：
サンセットタイム
～イアの街にて
写真下：イアの街にて



ーケットにも・・・。

夕食は、サントリーニ島北端の街イアで・・・。目的はサンセット。今回の旅のメインです。夕食、特に乾いた喉ごしに冷えたビールをいただきながらの夕陽。堪能しました。通の方は、ワインだそうです、グッと一息の飲み干すビールはまた格別。

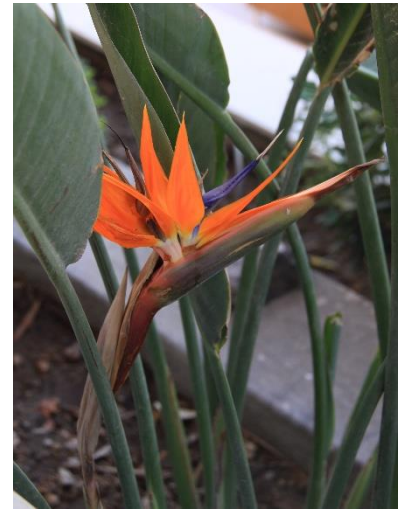
夕食の前には、勿論、イアの街散策です。少々、気温が高いようでしたが、時折、通



写真上：サンセットタイム～イアの街にて

り過ぎる海風が心地良く・・・。

ホテルの中庭に咲いていました。バクヤギク(ハマミズナ科カルポブロッツス属)の黄花種と、開花直前の白花種です。スニオン岬で見かけたのは桃色花種。そして、ゴクラクチョウカ〜ストレチア(ゴクラクチョウカ科ゴクラクチョウカ属)です。バクヤギクはグランドカバーとして植栽されていました。ゴクラクチョウカは一株のみ。他の植物の間に・・・。



写真上左/写真上中：バクヤギク(ハマミズナ科カルポブロッツス属)

写真上右：ゴクラクチョウカ〜ストレチア(ゴクラクチョウカ科ゴクラクチョウカ属)

* 第9日目 (4月26日)

サントリーニ島三日目。今朝は、ホテル前のカルデラに雲海が・・・。

今日は、最初にサントリーニ島南部のアクロリテリ遺跡へ・・・。紀元前 1500 年ころの大噴火で埋もれた街。当時は 3,000 人ほどが住み、3 階建ての建物や浴室なども備り、しかも排水施設も・・・。かなり高度な文明が存在していたようです。が、街は全滅。しかし人的被害は皆無？大きな余震の後、全員が島を脱出したためだとか・・・。エーゲ海のポンペイとも・・・。

現在、発掘されている範囲は、街全体の 3 パーセントほど。まだまだ大部分は埋没したまま・・・。大地震と洪水で、一夜にして海中に姿を消したと言われていたアトランティスは、未だ何処にあったのか確定していません。が、この遺跡の発掘は、「紀元前 15 世紀のサントリーニ島の大噴火とそれに伴う大地震と津波が、サントリーニの古代都市を壊滅させ、それがアトランティス伝説になったのでは？」との仮説を生んだとか・・・。

遺跡見学の後には、遺跡の近くにあるレッド・ビーチへ・・・。赤い海岸？といっても、砂浜が赤いわけではなく、背後の岩壁が赤いから・・・。鉄分が多く含まれているからだそうです。かつての壁画の男性の肌は、この岩を使用して色づけしていたそうです。沖合には、レジャーボートも・・・。



写真上：サントリーニ・カルデラの雲海
〜マジェスティック・ホテルにて



写真上左/写真上右：アクロリティリ遺跡にて
写真下左：レッド・ビーチ
写真下右：レッド・ビーチ沖合のレジャーボート



昼食前に、ワイン博物館でテストイング。白二種類、赤二種類。白は酸味が強く、赤は甘〜いタイプ。小生にとってはどちらも・・・この組み合わせ、最初の白をPRするためでしょうか？

レッド・ビーチからワイン博物館への途中にブドウ(ブドウ科ブドウ属)の畑がありました。サントリーニ島では、珍しい風景ではありませんが・・・。



写真上：ブドウ(ブドウ科ブドウ属)の畑
写真右：クルーラ仕立てのブドウの樹

ブドウの栽培方法ですが・・・ヨーロッパでは縦に枝を延す垣根仕立て、あるいは棒仕立てと呼ばれる栽培方法が、日本では、多雨多湿の気候に適した棚仕立てが主流。最近、日本でも、ワイナリーでは棒仕立てが多く見られるようになってきたようです。ところが、ここサントリーニ島は、前記とは異なりサントリーニ島ならではの工夫がされていました。「クルーラ仕立て」と呼ばれる方法です。

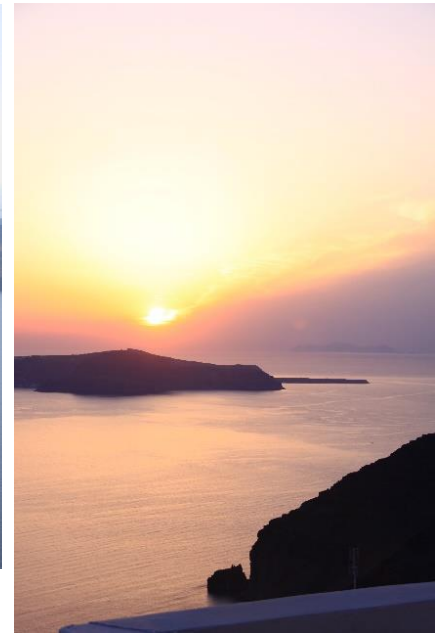
非常に強い海風から、ブドウの樹を守るため、枝をバスケット型にらせん状巻きにし、ブドウの樹を低く仕立てる世界で唯一の仕立て方だそうです。

ギリシャは、世界で最も古いワイン生産国の一つで、古代ギリシャは、ワインの歴史の上で重要な役割を果たしたそうです。特権階級の飲み物であったワインが庶民に広まったのはエーゲ海の諸島が最初で、ワインはここからギリシャ本土やイタリア半島などへ普及していったと考えられているそうです。

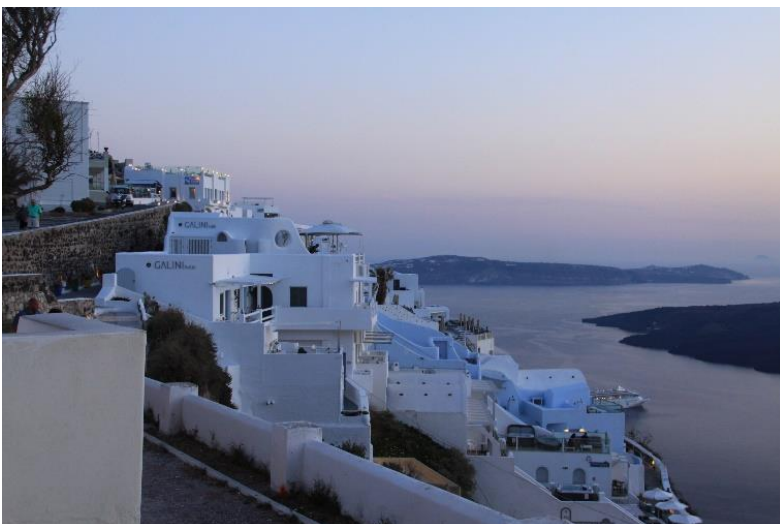
ワイン博物館での TESTING と見学後、エーゲ海に臨んだカマリ・ビーチへ・・・。別名黒砂海岸とも・・・。



写真上：カマリ・ビーチ



写真上左/写真上右/写真左：
フィロステファニにて



夕刻、フィラの隣街、フィロステファニで夕食。到着後、まずは市街散策。青い屋根と白い壁の教会、眼下にはクルーズ船も・・・。よく紹介される風景ですが・・・。



写真上左：ストレチア・ニコライ～オーガスタ

(バショウ科ストレチア属)

写真上中：オオバナカリッサの花/写真上右：同・果実

(キョウチクトウ科カリッサ属)

写真右：ヒメノウゼンカズラ

(ノウゼンカズラ科ヒメノウゼンカズラ属)

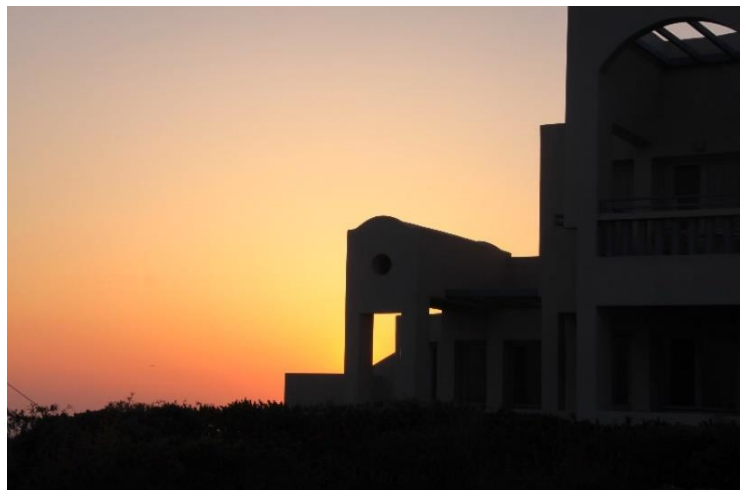
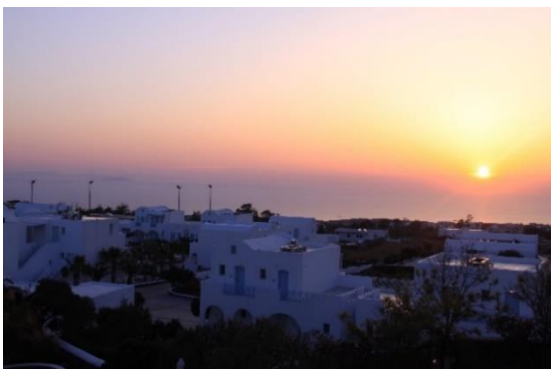


ワイン博物館前に植栽されていた珍しい花、ストレチア・ニコライ、別名オーガスタ。小生、始めて目にしました。皇帝ニコライ一世の名前が由来だとか。白い鳥のような花を咲かせることから、「天国の白い鳥」とも呼ばれている観葉植物でした。南アフリカ原産で、高さ 10m にも成長するそうです。

オオバナカリッサ(キョウチクトウ科カリッサ属)も初めてです。宿泊ホテルの花壇に植栽されていました。見かけたのは、この一輪のみ。果実は液果で円く、赤または紫に熟しスモモに似ています。果実は酸味が強いけれども、よい香りがあり、ジャムなどにすることが多いそうです。

ヒメノウゼンカズラですが、ワイン博物館前庭で見かけました。小生、始めて目にする花です。調べた結果、ヒメノウゼンカズラ(ノウゼンカズラ科ヒメノウゼンカズラ属あるいはテコマリア属とも)のようでした。南アフリカ原産だそうです。

* 第10日目 (4月27日)



写真左/写真上：マジェスティック・ホテルにて

早くも終盤です。今日は、サントリーニ島を離れ、空路、アテネへ・・・。宿泊ホテルから見た夜明け(現地時間AM6:40頃)。サントリーニ島の夜明けは今日でしばしのお別れです・・・。

昼前の便なので、ホテルでユックリと時間潰し。アテネ空港到着後、預けた荷物の受取に、かなりな時間を取られてしまい予定を変更。昼食後、国立考古学博物館のみの見学に・・・。先史時代から後期ローマ時代にわたり、クレタ島を除く、ポセイドンのブロンズ像など、ギリシャ各地の出土品の殆どが納められているそうです。



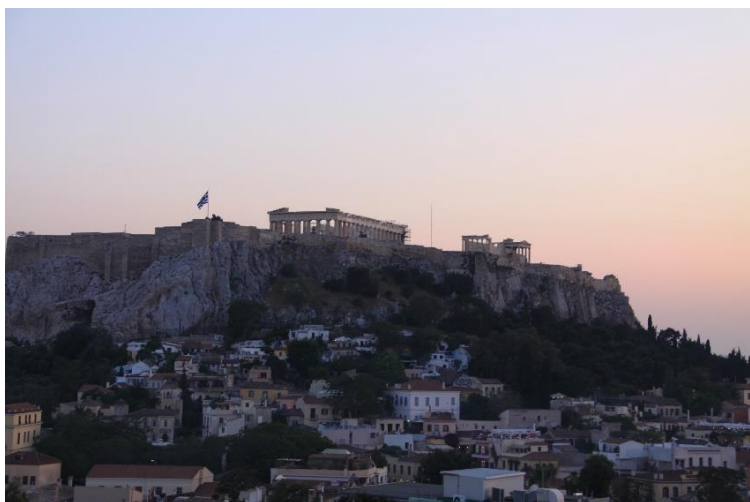
写真上左：国立考古学博物館
写真上右：ポセイドンのブロンズ像
写真左：馬に乗る少年(ブロンズ像)
写真下中：アテナの女神像(復元)
写真下右：アフロディテとパン

とエロスの像

～いずれも国立考古学博物館にて

アテネ市内移動中、車窓からはオレンジ～ネラジヤ(ミカン科ミカン属)の街路樹を見かけました。スペインでも見かけた記憶があります。さすが、地中海性気候の国。勿論、酸味が強く、食べられないとのことでした。

夜は、宿泊ホテル最上階にあるレストランで、アクロポリスの丘の夜景を楽しみながらの夕食。ギリシャで最後の晚餐？



写真上右：オレンジ～ネラジヤ
(ミカン科ミカン属)

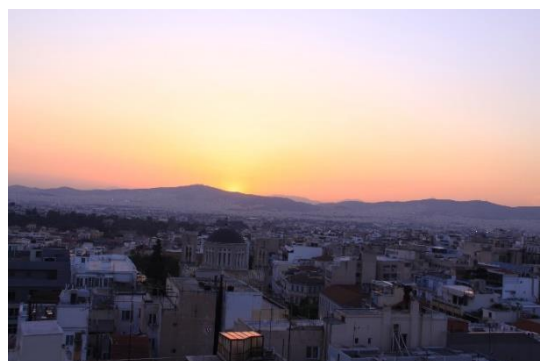
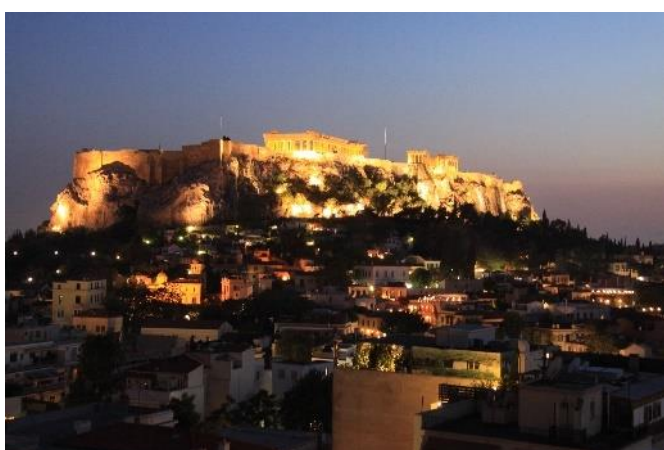
写真上左：アクロポリスの丘のサンセット

写真左：アクロポリスの丘のライトアップ

写真下：アテネのサンセット

～エレクトラ・メガロポリス

のレストランにて

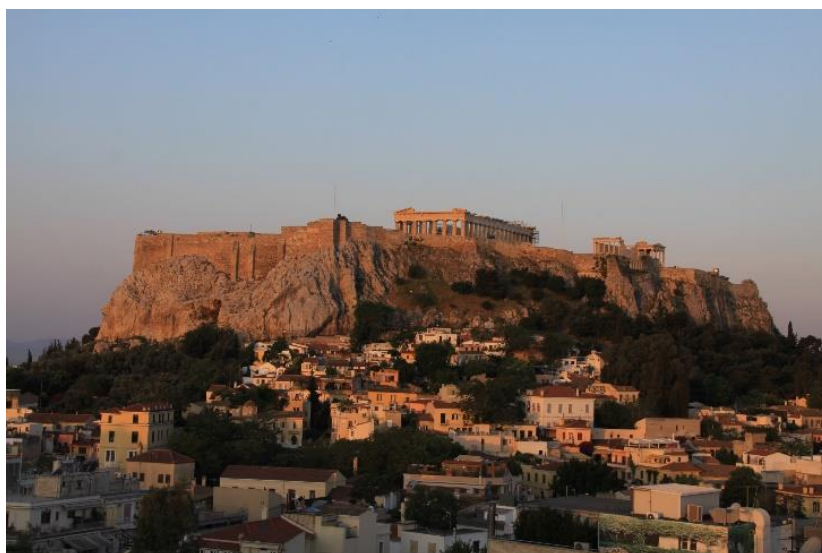


* 第11～13日目 (4月28日～30日)

とうとう、最終日になってしまいました。アテネからのフライトは夜中になるので、ほぼ終日、アテネ市内の観光です。勿論、目玉はアクロポリス遺跡の観光です。

アクロポリスは、1987年に世界文化遺産に・・・登録されるまでは観光客も疎ら、登録されてからは・・・登録されると、一度は行ってみたいくなるもの？

遺跡のゲートから少し坂道を登ったところにプロピレア(前門)があります。ここを通り抜けるとアクロポリスの丘の上。ところが、ここを通過するまで、大渋滞。人の列。わずか数十メー



写真上：アクロポリスの丘の夜明け

～エレクトラ・メガロポリスのレストランにて

トルですが、15分近くかかりました。途中の遺跡を横目に・・・人の流れに従って、ともかく前へ。中には、途中からバイパスする観光客も・・・。何処も同じ？やっと通過しても、やはり人人人。それでも、遺跡の規模が大きいため、なんとか観賞できました。現在の遺跡群は、紀元前5～4世紀に建造されたものだそうです。それにしても、巨大な・・・。

アクロポリスの丘は、全体が遺跡。通路のほとんどがデコボコ。結構、歩きにくい所でした。

下を見て歩かないと・・・。とは言うものの、上を見なければ、遺跡が・・・。ともかく、何度

も立ち止まっての見学でした。その上、人混みの中には・・・。バッグからも、人混みにも、目が離せない！！

それでも、丘の上、パルテノン神殿を過ぎると、人混みも、ほぼ解消。パルテノン神殿見学後は、展望台か



写真上：プロピレア(中央)、

アグリッパの台座とピナコテーク(左)



写真上：プロピレア
～丘の上から

写真左/写真右

プロピレアの石柱



ら、しばしアテネの街を・・・。

エレクテオンの少女の玄関には、かつてアテナの女神像が安置されていたそうです。アクロポリスの丘からは、フィロパボスの記念碑、ヘーパイストス神殿、聖使徒教会、アレオパゴスの丘などが眺望できました。

フィロパボスの記念碑は、2世紀頃にアテネに貢献した古代ローマの執政官フィ

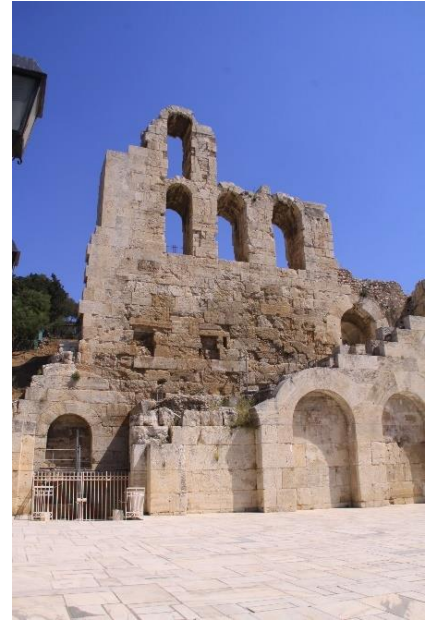
ロパボスを記念して、フィロパボスの丘に建てられています。



写真上左/写真左/写真下：パルテノン神殿
写真上右：アテナ・ニケ神殿



写真上：エレクテオン
写真右：エレクテオンの少女の玄関



写真上左/写真上右/写真左/写真下：
イロド・アティコス音楽堂



写真上左：聖ゲオルギウス教会とリカヴィトスの丘/写真上右：ゼウスの神殿とハドリアヌス門
～いずれも展望台にて



写真上左：フィロパボスの記念碑(フィロパボスの丘)

写真上右：ヘーパイストス神殿

写真下左：聖使徒教会

写真下右：アレオパゴスの丘

ヘーパイストス神殿は、鍛冶屋や窯業者が集まる地区に建てられたため、炎と鍛冶の神とされたヘーパイストスを祀る神殿となったそうで、紀元前 449 年に建てられ始め、紀元前 416 年から 415 年頃に完成したそ



～アクロポリスの丘から



うです。聖使徒教会は 10 世紀末から 11 世紀頃のビザンティン時代に建てられた聖堂で、19 世紀に聖堂修復の費用負担をしたソラキ家、又は当時の近隣地の名前を冠してソラキの聖使徒教会と呼ばれることもあるそうです。アレオパゴスの丘は、アテネのアクロポリス西方にある丘。アレス神が殺人のかどで神々に裁かれたとの神話から、この名があるそうです。

アクロポリスの丘見学の外、第一回オリンピック競技が開かれたティナイコ・スタジアム、国会議事堂と無名戦士の墓へも・・・。



写真上：ティナイコ・スタジアム

写真左：アクロポリスの丘

～ティナイコ・スタジアム前広場にて

シンタグマ広場は、アテネの中心部にある広場。1844年ギリシャ王国の憲法がここで発布されたそうです。シンタグマは、ギリシャ語で「憲法」のこと。国会議事堂を始め、官公庁や商業施設が多くこの広場の周囲に集まり、観光客もこの広場を含むプラカ地区には、昼夜問わず集まってくるそうです。

昼食後、フライトまでには時間があるので、ホテルの最上階にあるカフェで時間潰しと昼寝？深夜便でイスタンブール乗継ぎ、成田へ。ホテルから約18時間の移動。成田着が夜なので、成田でもう一泊。

ところで、もともと、アクロポリスの丘の建物は木造建築だったようです。が、ペルシャとの戦いで灰に…。その後、建築されたのが大理石主体の建造物群だそうです。

アテネ市内では、こんな街路樹も…。クワ…あのカイコが食べるクワ(バラ科クワ属)で

ズンドウ(寸胴)切り仕立てです。小枝を、できる限り残さないように、太い枝を、付け根付近から、あるいは幹を途中でバツサリ切り落とす方法ですが…。

クワは、横枝がそこそこ広がるので、街路樹として使用した場合、通行の妨げになるためか？勿論、果実が落ちた際、街路汚染の原因や通行人への被害も…。なぜ、クワを街路樹として植栽されたかは不明ですが…。

旅の中こんな話も…。現在、スポーツの勝者には、月桂冠が与えられていますが、かつてはオリーブの冠が与えられていたと言う話。調べてみると、そのようでした。

古代ギリシャの英雄ヘラクレスがオリンピアの庭に植えたオリーブの枝を、オリンピックの勝者に与えたこ

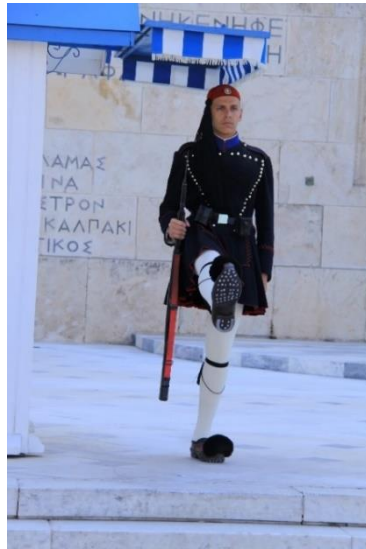


写真上：キョウチクトウ

(キョウチクトウ科キョウチクトウ属)

の玉作りとイトスギ

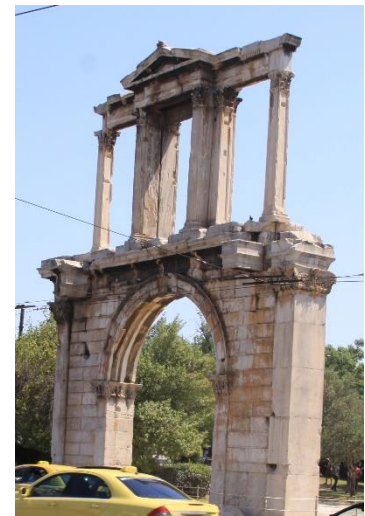
～ティナイコ・スタジアム前広場にて



写真上左：無名戦士の墓と衛兵/写真上右：国会議事堂(シンタグマ広場にて)



写真上左：プラカ地区にて/写真上右：ハドリアヌス門



とが由来で、2004年のアテネオリンピックでも、優勝者には金メダルとともにオリーブ冠が与えられたそうです。

一方、ゲッケイジュは文化芸術の神・アポロンの聖樹とされていて、その枝で作った月桂冠は詩人や文人の頭上を飾るもので、ノーベル賞受賞者が Nobel Laureates（ノーベルのローリエを冠された者）と呼ばれるのも、そういう意味だからだそうです。スポーツではオリーブ冠、文化では月桂冠というわけです。2012年の大阪国際マラソンでは、それまで優勝者に授与していた月桂冠をオリーブ冠に変えたとのこと。オリーブが平和のシンボルになったのも、古代ギリシャで、オリンピック開催中だけは休戦にしたからだそうです。

アカンサス(キツネノマゴ科ハアザミ属)・・・。アドリアヌス門への途中、花壇に・・・。ヤマモモソウ(アカバナ科ヤマモモソウ属)、別名ハクチョウソウとも呼ばれます。赤花種、白花種ともに、ホテルのテラスの花壇に咲いていました。

ギリシャ・・・。緑の少ない、乾燥した国とのイメージが有りました

たが、セイヨウハナズオウ、ニセアカシア、ライラック、プラタナスなどの花と緑の街路樹・・・。新緑+花盛りで素晴らしい国でした。

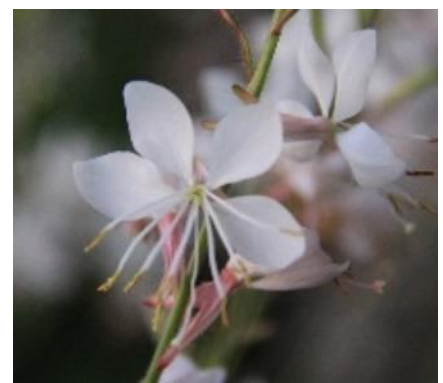


写真上左：アカンサス(キツネノマゴ科ハアザミ属)

写真上右：クワ(バラ科クワ属)

写真下左：ヤマモモソウ(アカバナ科ヤマモモソウ属)

写真下中：ヤマモモソウ(白花種)



～ 完 ～

2018年6月10日 by SM記

備考：今回は主に下記を参考資料として利用しました。

- ① Wikipedia、② 地球の歩き方(ダイヤモンド社)